

国語

【注意】

この問題はマークシート問題と記述式問題とにわかれています。

設問部分に「マ」とあるものはマークシート問題、「記」とあるものは記述式問題です。マークシート問題・記述問題ともにそれぞれ全問が通し番号になっていますが、記述式問題は設問ごとに個別にわけた解答欄となっています。

それぞれ所定の用紙・箇所解答を記してください。

第1問 次の文の傍線部の読みを「ひらがな」で書きなさい。（慣用読みは正解としない）

記1 週明けの手術に盤石の構えで臨む。

記2 過酷な状況下では、当事者の心情を斟酌せねばならない。

記3 傍目を気にするばかりでは主體的な学修はできない。

記4 当初の目的を実現するために手練手管を駆使する。

第2問 次の漢字（送りがなを含む）の読みが正しければマーク欄「1」を、誤っていればマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

マ1 嘲る「あなどる」

マ2 蘇る「よみがえる」

マ3 煩雑「ぼんざう」

マ4 怒声「どごえ」

マ5 日和見「ひわみ」

第3問 次の文の傍線部の「漢字」表記として正しいものをひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ6 理想と現実の間のカイリに苦しむ。

マ7 これら二つの病院は県下でソウヘキをなす。

マ8 カモクな患者との対話を模索する。

「1」	界離	「2」	乖離	「3」	解離
「1」	相壁	「2」	総壁	「3」	双壁
「1」	過黙	「2」	仮黙	「3」	寡黙

第4問 次の文の傍線部のカタカナを文意に即して「漢字」で書きなさい。各設問には異なる熟語が入ります。また、同じ解答が複数箇所に書いてある場合はすべて誤りとします。

記5 所定のケイキを終え社会復帰した犯罪者への差別が社会問題化している。

記6 各種のケイキの使用を修得するには工学の基礎知識が必要である。

記7 医療事故が断続的にケイキするような事態は絶対に避けねばならない。

第5問 次のそれぞれの語の対義語ないし類義語をあとの語群からひとつ選び、記号で答えなさい。また、対義語の場合はA、類義語の場合はBを、それぞれ区分欄に記しなさい。

- 記 8 一途
記 9 小心
記 10 拙劣
記 11 尊大
記 12 辛酸

【語群】

- ア・豪胆 イ・多岐 ウ・妥当 エ・懸命 オ・巧妙
カ・大綱 キ・困苦 ク・優勢 ケ・甘受 コ・謙虚

第6問 次の慣用表現の空欄に入るもっともふさわしい語句をあとの語群からひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ9 言を「 」にする

- [1] 前後 [2] 上下 [3] 左右 [4] 高低

マ10 たもとを「 」

- [1] くくる [2] 上げる [3] 割く [4] 分かつ

マ11 一笑に「 」

- [1] 付す [2] 果たす [3] 流す [4] 正す

第7問 次の語句の意味としてもっともふさわしいものをあとの選択肢からひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ12 間尺に合わない

- [1] 見通しが立たないこと [2] 損になること

- [3] 都合がつかないこと [4] 悪事に手を染めること

マ13 溜飲を下げる

- [1] 不満が解消すること [2] 体調が回復すること

- [3] やる気がなくなること [4] 興奮をおさえること

マ14 憂き身をやつす

- [1] 怠惰な日々を過ごすこと [2] 悩みを親しい者に打ち明けること

- [3] 金銭の無駄遣いをする [4] ひとつのことに熱中すること

第8問 慣用表現を用いた次の文の空欄には、それぞれ身体の部位をあらわす漢字一文字が入ります。文脈から判断してもっともふさわしい漢字一文字を記しなさい。同じ漢字を複数回使用することはできません。

記13 「 」に衣着せぬ率直な物言いが彼の特徴である。

記14 看護師長と「 」を並べるまでに看護技術が向上した。

記15 これまでの苦しい日々を思い返すと「 」に迫るものがある。

第9問 次の傍線部の現代かなづかいが正しければマーク欄「1」を、誤っていればマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

マ15 春先になると植物のつぼみが徐々に色ずき（漢字表記なし）始める

マ16 とおか（灯火）親しむ季節の訪れを感じる

マ17 じようちよ（情緒）が不安定になる

マ18 おおへい（横柄）な態度は不快だ

第10問 論述には、論理的に常に正しいものと、常に正しいとはかぎらないものとがあります。次の文章が論理的に常に正しければマーク欄「1」を、常に正しいとはかぎらなければマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

【注】「ゆえに」の前の二つの文の叙述内容は常に正しいものであると仮定します。また、叙述の内容が実社会の現実と合っているとはかぎりません。

マ19 A市ではリサイクルするゴミの回収は必ず水曜日におこなわれる。今日は水曜日である。ゆえに今日、A市のリサイクルするゴミの回収がおこなわれる。

マ20 県南地区のデイケアセンターには機械浴の設備がある。B施設には機械浴の設備がある。ゆえにB施設は県南地区のデイケアセンターである。

第11問 次の推論が適正であるために、あとの選択肢のなかでもっとも適切な条件はどれか、ひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

【注】叙述の内容が社会の実態と合っているかどうかを問うものではありません。

マ21 あの学生はナース服を着ているから、看護学校の学生にちがいない。

〔1〕看護学校の学生はよくナース服を着ている。

〔2〕看護学校の学生はみなナース服を着ている。

〔3〕看護学校の学生はナース服以外は着ない。

〔4〕看護学校の学生のみがナース服を着ている。

第12問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

直接接続の「おしやべり」の文体

(略)

文字が組織した「思考と表現」の問題領域のうち、特定の他者に向けた表現は「礼儀」として問題にできる。しかしながら、自己との関わりや、第三者の厚みをもった他者の蓄積としての関係を含みこんで成立する思考の問題は、主題化できずに背景に退かせてしまう。ケータイメールの空間における「書くこと」は、ツイッターのような新しい便利の瞬間的な接続以外には、公共空間となんらかの形でつながりうるような回路を見失っているように思える。そのような断絶が生みだされた要因はなにか。

(略)

参照する力の衰弱

第二に無視できないのは、参照する力の衰弱である。

すなわち、それまでの経験や思索の蓄積を参照すべきもの、あるいは関連するものとして引用し、そこから学んだり、違いを考えたり、再構成したりするという「書く」うえでの作法が成立していない不十分さである。「現在中心主義」あるいは「刹那主義」と言ってもよい。

「恒常性維持的」^{ホメオスタティック}で「状況依存的」な声の思考と表現への回帰である。これは第一で指摘した、短さゆえに「論じる」文体を発展させていないということとも対応している。ケータイメールでは、コンピュータ上でのメールや論考の文章と異なり、いわゆる「引用」が極端に少ない。たぶん必要とされていないのである。

しかも、正確な意味での「引用」が、じつは他者の尊重であることを考えると、この不足や欠落が意味するところは深い。ただ内容を、そこに写して持ってくれば「引用」なのではない。他者の意見や達成と、自分の主張とを明確に区別する作法なしでの引き写しは、「剽窃」と非難されてもしかたがない。出典の明記は、引用した相手への敬意であるという以上に、第三者としてあらわれる読者による確認や批判の参入を可能にするという意味で、「文字の文化」の公共性を支えるものであり、その構築につながっている。

ケータイの液晶文字もまた、基本的には「文字の文化」の力を共有している。通話の声の共鳴の同時性からの解放は、返信という反応までの余裕として、どこかで時間の自由を確保したことを意味した。さらに、文字での返信は、声での即時的な返答と異なる、よりふさわしい表現への推敲や論理の再編成という、「私」に再帰する時間の捻出を可能にしたはずである。しかも電子化した「メール」は、過去のやりとりが自動的に保存され体系的に整理される。そのような便利は、「手紙」ではとても望めない。蓄積がはるかに参照しやすく、意識的な検索の対象ともしうる点は、メリットとして使えるはずであった。

しかしながら、現実とは異なる。ときに「記録性」とも指摘されることもある、こうした特質を、さてどれだけ主体的に活用しているか。文字による反省あるいは「再帰性」の時間が、どのていどの主体性を育んでいるか。たぶん、「即レス」の不安に縛られた、刹那的・瞬間的な短文での満足が支配的な交流の世界では、単純に辞書を引くというようなことを含めて、そうした蓄積参照の必要はあまり意識されないように思えてならない。

テレビ電話の分析で参照した認知心理学者が、感銘を受けた小説の一節は、その点でじつに示唆的である。

携帯電話はどこにあっても個人を閉塞した輪の中にとどめ、一人でこそ得られる発見、会えない時間が育てる人間関係といったものを失わせる。「原田悦子・野島久雄 二〇〇四・三一一」

かつての「文字としてのことば」は、まさにここでいう「一人でこそ得られる発見」の孤独な時間を黙読と書くことにおいてつくり出し、「会えない時間が育てる人間関係」という、距離を乗り越える想像力を可能にするものであった。

※注記 剽窃 ↓ 盗用のこと。

佐藤健二「ケータイ化する日本語」大修館書店

マ22 26 次の各文が本文の内容と合っていればマーク欄「1」を、合っていない、もしくは本文に該当する記述がない場合はマーク欄「2」を、それぞれチェックしなさい。

マ22 文字による通信手段は、通話というものがもたらす同時性からの解放であるが、返信までに要する時間がかかることで、通話よりも劣る手段ととらえる人々が増えた。

マ23 それまでの経験や思索として蓄えたものを参照したり、関連事項として引用して学びを得たり、相違点を考えたり、再構成したりする力が参照する力である。

マ24 出典を明記することは、読者が記述内容を確認したり批判したりすることを可能にする「文字の文化」の公共性を支えている。

マ25 「即レス」せねばならないという不安から短文で交流することが一般的となっている世界では、それまでの蓄積を参照する必要性は意識されないとと思われる。

マ26 ケータイメールには「引用」がきわめて少ないが、これはコンピュータ上でやりとりするメールや論考の文章と相通じる特徴である。

第13問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

人生最終段階の看取りから死後のことまでについて、従来の決まった形が崩れて選択肢が増え悩みの種になっている背景には、私たちが置かれている社会の構造の変化がある。

日本では十九世紀末の近代化から二〇世紀後半の高度経済成長を経るなかで、産業の重点分野が、農林漁業の第一次産業から鉱工業の第二次産業へ、そしてさらに商業やサービス業などの第三次産業に移ってきた。そうすると経済を支える主な力が生産よりも消費となり、高度消費社会が実現する。生産は、農業では家族・地域共同体、工業では大規模な工場を経営する企業が担い、そこでの人のつながりが人々に生活の基盤を提供し、家族や社会を支えてきた。だが消費は、かつては家計を単位としていたが、一九八〇年代以降、個人を単位とする商品やサービスが中心となっていた。昔は一家に一台で聞くものだったステレオレコードプレーヤーが、一人で持ち歩いて聞ける機器になったのは、その「一人」な例だ。こうして人々の生活基盤は個人化し、一人で選んで買える物とサービスがふんだんにあふれる、自由で豊かな社会が実現した。だがその反面では、地域社会や職場だけでなく家族の人間関係も希薄になって、①が進む傾向が出てくることは避けられなかった。少子高齢化はその傾向に拍車をかける。とくに人生の最終段階での孤立・無縁化は、亡くなるまでだけでなく、死後にも及んで、当事者に様々な問題をもたらすことになった。

こうした社会構造全体の変化がもたらす状況のなかでは、死んだあとのことで困難が生じて行政が対応する必要があるが出てくるのは、もはや生活^Aコンキョウ者や無縁者などに限られたことではない。私たちみな、多かれ少なかれ、死ぬまでと死んだあとのことをどうしたらよいか、誰に頼めるか、悩まされるようになっていく。

そうしたニーズが増えている証拠に、先に自治体行政の新しい対応をみたが、民間でも、死亡届・通知から葬儀、墓の手配などの様々な死後事務を、当事者に代わって一括して行う委託契約サービスを提供する業者や法人が出てきている。だが民間任せには限界がある。死後事務を委託された事業体のなかには、経営が立ちゆかなくなつて^Bハタンするなど、社会問題化するケースも出てきた。この問題に対処し被害者を救済するため国の行政も動くことになったが、担当したのは消費者庁だった。しかし、②から出てくる問題に対応するのが、消費者行政でよいのだろうか。

くり返しているが、老後の不安、看取りの不安は、死後の不安まで含んでいる。医療と介護は死ぬまでのことだが、最後まで安心して暮らせる包括ケアだというなら、死んだあとのこともどうするか決めて実行するところまで、福祉として面倒をみるべきではないだろうか。それこそ、社会保障のスローガンが「ゆりかごから墓場まで」と謳っていることである。死ぬまでだけでなく、死んだあと、葬儀をして墓場に入るまでが、社会保障の対象だということだ。だからフランスでは、住民の葬儀や墓地の手配を自治体の業務としている。

それに対し日本では、死後のこと、葬送のことは私的なことがらとされ、個々の当事者にゆだねられている。だが生活単位が個人化していく無縁社会の趨勢のなかでは、託せる人が

なく葬儀や墓を用意できないという人だけでなく、③ という人も、今後増えていくだろう。

そうした死後の不安への対応を、民間任せにしたままではいけない。医療、介護、福祉と同じく、死亡届から埋火葬と墓地までの死後事務も、厚生労働省の所管だ。同じ役所のなかの業務なのだから、厚生労働省が進める地域包括ケアは、死んだあとのことまで「包括」するべきだ。そうすれば当事者は、医療、介護、看取りから死後の手続きと実行まで、あちこちの窓口や業者に足を運ばず、ワンストップですむようになる。

死の看取りでは、本人だけでなく家族のケアもだいじだ。葬送は死んだ人だけでなく、残された者のためにもある営みだ。様々な選択肢が登場して、葬送のあり方は、いま一種の混乱状態にある。そこでいざとなったとき当事者が悩み苦しまなくてすむよう支えられる体制をつくることも、地域包括ケアを進める行政と関係専門職に求められる役割ではないだろうか。

安心して最期を迎えることができるためには、看取りから死ぬまでだけでなく、死んだあとのことまで考えて決めておく必要がある。だがそれは家族の間でもけっこう面倒なことで、縁起でもないという「イ」も働くから、つい先送りにしてしまいがちだろう。そこに、地域包括ケアの出番がある。看取りのことから続けて死後のことまで、本人と周りの者が話し合い決めていく場を、地域包括ケアで在宅医療・看護や介護に通うそれぞれの専門職の人たちが、「ウ」をみて仲介しとりもつことができるのではないだろうか。医療職、介護職にある人たちに、死の前後に必要な関連の福祉、行政、民間のサービスを把握し、当事者をそこに紹介しつないでいけるようにすることも、地域包括ケアのゴールの一つと考えてもらえるといい。

行政で行う事業がそこまでプライベートなことに関わるのに、難色を示す向きもあるかもしれない。医療・看護や介護に携わる人たちは、死んだあとのことは自分たちの仕事ではないと思うかもしれない。だが、それも重要な人間のニーズなのだ。生きている人の生命と健康を支えるのと同じように、死んでいく人の行く末を見守ることも、私たちみなのだいじな仕事なのだ。それが、地域包括ケアのほんとうの理念だと私は考える。

地域包括ケアが目指すのは、いままでは病院に送られていた死にゆく人の人生最後の居場所を、自宅近隣のコミュニティのなかにつくることだといえる。そして死後のこともそれにつながる。葬式や墓を通じた弔いとは、④ である。だから地域包括ケアの理念は、死にゆく人だけでなく死んだ人をも、生きている人となつないでコミュニティをつくることだと考えられないだろうか。地域包括ケアの一環として、死んでいく者、死んだ者となつながらコミュニティができることで、生き続ける者たちも、そのなかに居場所を得ることができるとも考えられるのではないだろうか。

昨今問題になる無縁社会とは、要は、生活の単位が独立した個人に細分化された社会である。そこで実現した自由と豊かさを守りつつ、無縁化がもたらす弊害にどう対応すればよいかを考える必要がある。死後のことについて、日本の現状では、個々の当事者と民間業者にまかせるだけで、その結果、まさに「エ」を増やしてしまっている。地域包括ケアの理

念を看取りから死後まで広げて関係者が動くことで、個々の当事者の悩みをコミュニティのなかで引き受け、居場所をつくっていければ、無縁社会を有縁社会に変える契機にできるのではないだろうか。

死と死後のことは、個人と家族のプライバシーに属することだが、そのプライバシーを充実させ満足のいくものにするのが、社会保障の役割ではないだろうか。命と健康状態もプライバシーに属することだが、その充実ないし改善のために受ける医療は、社会保障として提供される。私たちは、生まれる前から死後のことまで、まさにゆりかごから墓場まで、社会保障で充実させることを求める権利がある。社会保障は、私たちみななを守り充実させるために、私たちみなが税金や保険料を払うなどしてつくりあげる、「オー」の精神で成り立っている。つまり、私たち一人一人のプライバシーをつなぐ絆、縁なのである。だから、^D社会保障の一環として提供される地域包括ケアは、生者と死者をつなぐ新たな有縁社会の礎になれるのではないかと考える次第である。

礒島次郎 「先端医療と向き合う」 平凡社新書 945

マ27 空欄 ① に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- 〔1〕 個々人の孤立と社会のいわゆる無縁化
- 〔2〕 消費の孤立と社会構造全体のいわゆる無縁化
- 〔3〕 生活基盤の孤立と家族のいわゆる無縁化
- 〔4〕 企業の孤立と行政のいわゆる無縁化

マ28 空欄 ② に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- 〔1〕 産業の重点分野の推移に伴う社会構造の大規模な変化
- 〔2〕 孤立した人びとの連携強化をめざす自治体行政
- 〔3〕 倒産した企業や事業体を救済して欲しいという経済団体の要求
- 〔4〕 死という重大な出来事をめぐる国民のニーズ

マ29 空欄 ③ に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- 〔1〕 家族はいるが負担をかけたくない
- 〔2〕 葬儀については託せる人がいても、遺産は託したくない
- 〔3〕 無縁社会に慣れてしまつて無縁のままの方がよい
- 〔4〕 プライベートなことについては行政機関に任せたくない

マ30 空欄 ④ に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- 〔1〕 生きている人と死んだ人とを区別してしまうこと
- 〔2〕 死んでしまった人たちをあの世で甦らせること
- 〔3〕 生きている人による生きている人のための儀式
- 〔4〕 死んだ人の居場所を現世のなかにつくること

マ31 文中の「ア」から「オ」に入る言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

- | | | | | |
|-----------|-------|------|--------|---------|
| 〔1〕「ア」本質的 | 〔イ〕印象 | 〔ウ〕時 | 〔エ〕当事者 | 〔オ〕相互作用 |
| 〔2〕「ア」象徴的 | 〔イ〕遠慮 | 〔ウ〕機 | 〔エ〕無縁仏 | 〔オ〕相互連帯 |
| 〔3〕「ア」具体的 | 〔イ〕拒絶 | 〔ウ〕折 | 〔エ〕選択肢 | 〔オ〕相互補完 |
| 〔4〕「ア」特徴的 | 〔イ〕意識 | 〔ウ〕期 | 〔エ〕孤独死 | 〔オ〕相互報酬 |
| 〔5〕「ア」典型的 | 〔イ〕迷信 | 〔ウ〕場 | 〔エ〕個人化 | 〔オ〕相互依存 |

記16 傍線部Aの「コンキユウ」を、文脈にふさわしい漢字に書き換えなさい。

記17 傍線部Bの「ハタン」を、文脈にふさわしい漢字に書き換えなさい。

記18 傍線部C「地域包括ケアの一環として、死んでいく者、死んだ者とながらるコミュニケーションができることで、生き続ける者たちも、そのなかに居場所を得ることができるとも考えられる」とあるが、「生き続ける者たちも、そのなかに居場所を得る」とはどういうことか、八〇文字以上、一〇〇文字以下の一文で説明しなさい。句読点も一字分とします。冒頭の一字下げは不要です。

記19 傍線部D「社会保障の一環として提供される地域包括ケアは、生者と死者をつなぐ新たな有縁社会の礎になれるのではないか」と考える筆者が医療職や介護職に期待すること何か、九〇文字以上、一〇〇文字以下の一文で答えなさい。句読点も一字分とします。冒頭の一字下げは不要です。